ニューストピック！

ビッグサン URX 工法が、ポリマーセメント系塗膜防水材としては、業界ではじめて

メンブレン防水層の性能評価試験において、好成績をおさめました。

項目		試験結果	項目	試験結果
水密		漏水なし	疲労	疲労 A4
へこみ	20℃	へこみ４	ジョイントずれ	ジョイントずれ３
	60℃	へこみ４	ずれ・垂れ	ずれ・垂れ３
耐衝撃	0℃	耐衝撃２	コーナー部安定性	コーナー部安定性３
	20℃	耐衝撃３	耐風	耐風４
	60℃	耐衝撃１	ふくれ	ふくれ４

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

本社総務部の古屋野と申します。昨年９月に入社しましたが、入社当初は初めての業種、職種ということもあり、戸惑うことも数多くありました。現在は少しずつ業務にも慣れ、少しずつ落ち着いてはきましたが、まだまだミスが多いため、もっと丁寧に、ミスを減らして業務を円滑にしていくように心がけています。

業務内容ですが、販売処理票の作成、納品書のチェック・送付、請求書の発行・送付、仕入入力業務などを行っています。

販売処理票の作成は本社事務員全員で行い、お客様から頂いた注文書から販売処理票を作成し、事務員同士で入力漏れやミスがないかの確認を行っています。

また、納品書のチェックでは、販売処理票と納品書を見比べながら、納品書に入力ミスがないかのチェックと訂正を行っています。納品先が工事現場になっている納品書をチェックしている時、自分が利用したことがある建物名が記入されていると、この建物ではこの材料を使っているのかと、少し不思議な気持ちになります。

納品書や請求書を送付する時は、郵便物の集荷時間に間に合わせられるように作業をしますが、時間が足りずに先輩社員や同期の方に手助けして頂くこともあり、まだまだ業務を効率的に行うための努力や時間調整が未熟だと実感します。

様々な業務を行えば行うほど、「こうすれば作業が早くなるのではないか」「こういう資料を作れば効率が良くなるかもしれない」など、日々業務の効率化ができるように思考を巡らせ、できることから実行し、自身の成長に繋げています。

先輩方や同期の方々とも仲良くさせて頂き、もっと正確に業務ができなければと焦ってしまうことが多くあります。焦れば焦るほど混乱してミスが増えてしまうので、物事を冷静に見られるようになることを現在の目標にしています。

今後も業務を吸収しながらミスを減らしていき、効率的に動くことができるよう日々努めて参りますので、これからも宜しくお願い致します。

総務部 古屋野 めぐみ

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702

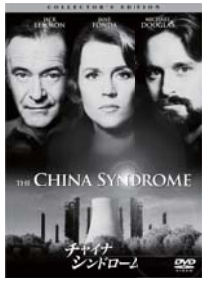
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

次号もお楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.33

映画で学ぶ環境問題



チャイナ・シンドローム
(The China Syndrome)

監督：ジェームズ・ブリッジス
出演者：ジェーン・フォンダ
　　ジャック・レモン
　　マイケル・ダグラス
上映：122 分
公開：1979 年
配給：コロムビア映画

本年４月に発生した熊本地震では、熊本地方での余震が収まるどころか鹿児島方面や福岡方面そして日向灘や豊後水道など東西南北に絶え間ない地震が広がっています。そんな中、鹿児島県にある川内原発について「なぜ余震が続くのに止めないのか？」という批判が市民団体を中心に相次いで出されていますが、ネット上では「川内原発は『止めない』のではない。相次ぐ地震により、シリンダーがゆがんで『止めたくても止められない』のだ！」というブラックな噂さえ流れています。

もちろん九州電力では「トラブル情報なし」という公式発表をしますが、残念ながら原子力発電というのは、一度大きな事故を起こしてしまうと、決して小さくない範囲の地域にとても甚大な被害を後世にわたりもたらしてしまうため、一事業所内だけの問題として片付けることはできず、一般市民にとっては無視できないものなのです。

今年５月１１日付でも出していますが、残念ながら原子力発電というのは、一度大きな事故を起こしてしまうと、決して小さくない範囲の地域にとても甚大な被害を後世にわたりもたらしてしまうため、一事業所内だけの問題として片付けることはできず、一般市民にとっては無視できないものなのです。

さて、今回取り上げた１９７９年のアメリカ映画「チャイナ・シンドローム」は、原子力発電所の不祥事をもみ消そうとする側と、それをあばこうとするマスコミ側の対立を描いた作品ですが、４０年近く時を経た今、改めて鑑賞してみても「原発運営者側の安全に対する意識」が当時と何も変わっていないことに驚かざるをえません。

本作は、カリフォルニアにある原発所内で偶然、テレビの取材班が事故の様子を撮影するというスクープから始まります。主役のＴＶキャスターを務めるのは、今は懐かしいジェーン・フォンダ。重要な役回りのフリーカメラマンを演じ、本作のプロデューサーも努めるのは、当時まだ若手だったマイケル・ダグラスです。（いずれも著名な二世俳優！）

早速、放映しようとすると、原発経営陣から大変な圧力がかかり放送は中止に。納得がいかないカメラマンはフィルムを盗み出し、物理学者や各種の専門家に事故の様子を見せて、一体何が起こっていたのかを突きとめようとします。折しも、新しい発電所の許認可を得るための公聴会が開かれる最中で、真実を公表しようとする彼らに対し、お金に目がくらんでいる経営陣の魔の手が迫ります。

そんな中、「原発を愛してるんだ。私は、この発電所でずっと働いてきたんだ。」という技師であり室長であるジャックレモン扮するゴデルがコトの重要性に気づき、安全を軽視する経営陣（建設会社含む）をかばいきれないと判断し、とうとう捨て身の作戦に出るのです。

ここから先は本作品をご覧になる方のために書きませんが、炉心溶融という重大事故が起きた時、つまりメルトダウンになった後に、放射性物質や核燃料がアメリカの地下を溶かしてメルトスルーし、地球の反対側である中国にまで到達してしまうと意味の「チャイナ・シンドローム」という言葉が注目されました。

本作が公開された当初の１９７９年３月１６日前後には、「くだらない映画」と一蹴するむきもあったのですが、公開からわずか１２日後に、当時最も大きな原発事故となったスリーマイル島原子力発電所事故がアメリカ北東部で発生し、一気に世間の風向きが変わったのです。それもあってか、本作品は各映画賞のノミネート作品として今なお高い知名度をほこっています。

ただ、さすがに４０年も前の作品ですから、放映データが安易にコピーが可能なデジタルではなく、コピーがしづらいアナログフィルムであったことや、原子力制御室のスタッフ数や機器があまりにも貧相なこと、そしてカーチェイスもこじんまりとしたものだったりするのですが、３・１１を経験し、今また「想定外」の震度を記録し続ける熊本地震、そして政府や電力会社の対応などの現実を目の当たりにすると、ちょっとしたサスペンス以上にハラハラするものです。

それというのも、冒頭に書いた「原発運営者側の安全に対する意識」が何も変わっていないからです。本作はフィクションですから、「原発運営者」もフィクションであるはずの存在なのですが、現実とダブって見えるのは筆者だけではないようです。実際にネット上には、本作品を通して、改めて原発問題を認識したという声が絶えません。なぜなら、本作でも再三問われる「事故が起きた時、どういう対策が取られるのか。廃棄物の処理法も含め答えがありません。」という反対派の質問に、４０年後の未だにきちんとした答えが出されていないからです。